

第3回世界閉鎖性海域環境保全会議の概要

第3回エメックス/第7回ストックホルム・ウオーター・シンポジウム

1997年8月11日～14日／スウェーデン・ストックホルム市

「第3回エメックス会議」は、「第7回ストックホルム・ウオーター・シンポジウム」とジョイントで北欧の水の都とも呼ばれるスウェーデン・ストックホルム市において開催いたしました。今回の会議は1994年に設立された「国際エメックスセンター」が主催する初の国際会議となりました。

テーマは、「川から海へ 陸域活動、淡水、閉鎖性海域の相互作用を探る」で、80ヶ国、1000人の参加がありました。陸から海に流入する栄養物質や有害汚染物質の運搬役としての淡水の役割、土地利用と水



質との関係などについて、淡水分野、海洋分野の各研究者、行政的立場、NGO団体が専門分野の垣根を越えて議論することで互いの連携を促進しました。同時に世界各地の沿岸海域の類似点と相違点について考え、世界の環境保全に向けて総合的な推進を図ることができました。

会議は、世界を代表する閉鎖性海域（瀬戸内海、チェサピーク湾、バルト海、黒海）のケーススタディが全体会議で行われ、また、各研究者による発表、討論は、37ヶ国約165人が5部門12分科会に分かれて行いました。うち日本からの発表者は25人でした。

ポスターセッションでは、8ヶ国72件が選定され、日本からは16件が発表しました。この会議の成果として、ストックホルム宣言が採択されました。この宣言では、汚染負荷の減少をめざし①総合的なアプローチの追求、②正しい理解、③積極的な対話、④広域で考え地域に根ざした行動の4つの原則を勧告しました。

「ストックホルム声明」より

原則を勧告しました。次の4つの原則に基づき、閉鎖性海域への汚染負荷を安全なレベルまで減少させることを目指した行動をとるように勧告する。

原則1

総合的なアプローチを追求する。

集水域と沿岸海域は水の移動を通じて陸から海へ継続的に、物理的につながっているため、土地利用と水管理に対して総合的なアプローチが必要となる。

原則2

正しい理解を深める。

これ以上の汚染をくい止め、生態系を回復する効果的な解決策を発見するためには、集水域での破壊的で、汚染を引き起こす人間活動と、沿岸海域での生態系破壊との因果関係の正しい理解が必要である。

原則 3

積極的に対話を行う。

進行中の環境悪化を食い止めるための決断の際には、一般市民、産業界リーダー、農業者、水産業者、資源管理者、政策決定者間の建設的な対話と情報交換が必要である。

原則 4

広域で考え、地域に根ざして行動する。

地域レベルで必要な技術的・法的措置を実施し、支流域のレベルでの活動を行う。